

京都迎賓館周辺の公家邸跡

京都御苑内の東北にある京都迎賓館周辺には、平安時代の貴族邸や江戸時代末期の公家邸の跡地や遺構、幕末の事件に絡む跡地が残ります。それら跡地は美しく整備され、自然豊かな国民公園として一般に開放されています。



1 中山邸跡

幕末期の公家、中山忠能(ただやす)の邸宅跡です。忠能の娘・慶子(よしこ)を母として祐宮(さちのみや)(後の明治天皇)が誕生しました。敷地内にその産屋(うぶや)が残ります。



3 土御門第跡

平安時代中期に摂政・太政大臣になった藤原道長の邸宅跡です。道長の長女・彰子(あきこ)は一条天皇の中宮となり、後に里内裏になるこの邸宅で、後一条天皇、後朱雀天皇になる皇子を産みました。



2 橋本家跡

孝明天皇の妹・和宮親子内親王(かすのみやちかこないしんのう)誕生の地といわれます。和宮は母方の橋本家で14年間養育され、幕末の公武合体政策で徳川十四代將軍家茂(いえもち)に嫁ぎました。



4 染殿第跡・染殿井

平安時代前期に摂関政治の礎を築いた藤原良房の邸宅があった場所とされます。良房の娘・明子(あきらけいこ)は清和天皇の生母で、文徳天皇の中宮「染殿后」と呼ばれていました。

寺町の社寺

1 清浄華院

浄土宗4箇本山の一つで、浄華院ともいいます。寺伝では平安時代前期の円仁(慈覚大師)を創建とし、後に法然を中興の祖として念仏の開祖としました。境内墓地に山科言繼(ときつぐ)、姉小路公知(あねこうしきんとも)らの墓があります。



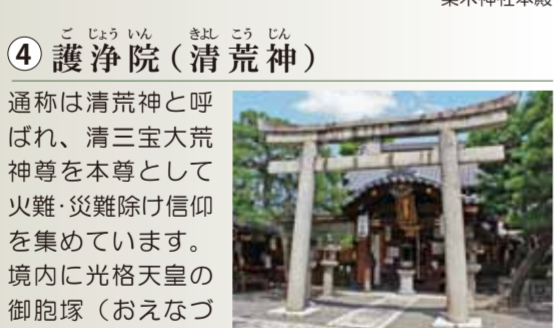
2 廬山寺

藤原兼輔(かねすけ)がこの地に邸宅を構えたことから、境内地は孫になる紫式部の邸宅跡と考証され、境内に紫式部の顕彰碑や紫式部と娘の第貳三位(だいにのさんみ)の歌碑があります。本堂の南庭は「源氏庭」と称されます。また、境内の裏の墓地には「史跡御土居」が残ります。



3 梨木神社

明治維新に貢献した三条実万(さねつむ)・実美(さねとみ)父子を祀っています。境内には京都三名水の一つ「染井」が湧き、萩の名所としても知られています。



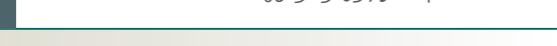
4 護浄院(清荒神)

通称は清荒神と呼ばれ、清三宝大荒神尊を本尊として火難・災難除け信仰を集めています。境内に光格天皇の御胞塚(おえなづか)があります。



5 下御霊神社

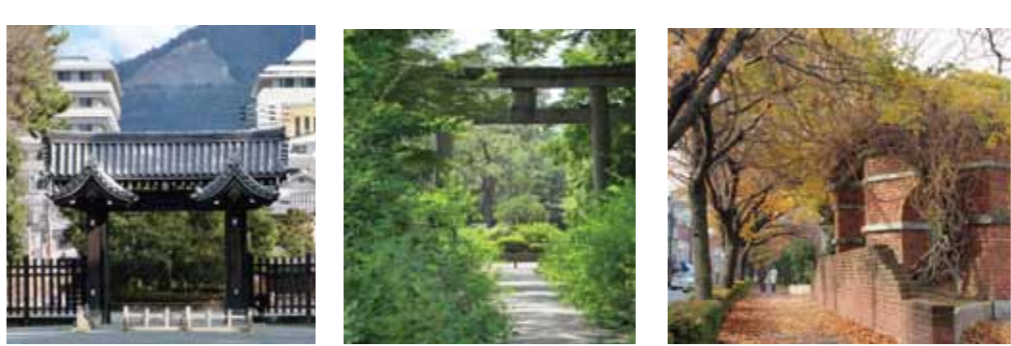
御霊とされた早良親王(さわらしんのう)、橘逸勢(たちばなのはやなり)などに吉備真備(きびのみまきび)、菅原道真を加え八座を祭神とします。本殿、幣殿、拝所、南北廂と拝殿が市指定有形文化財です。



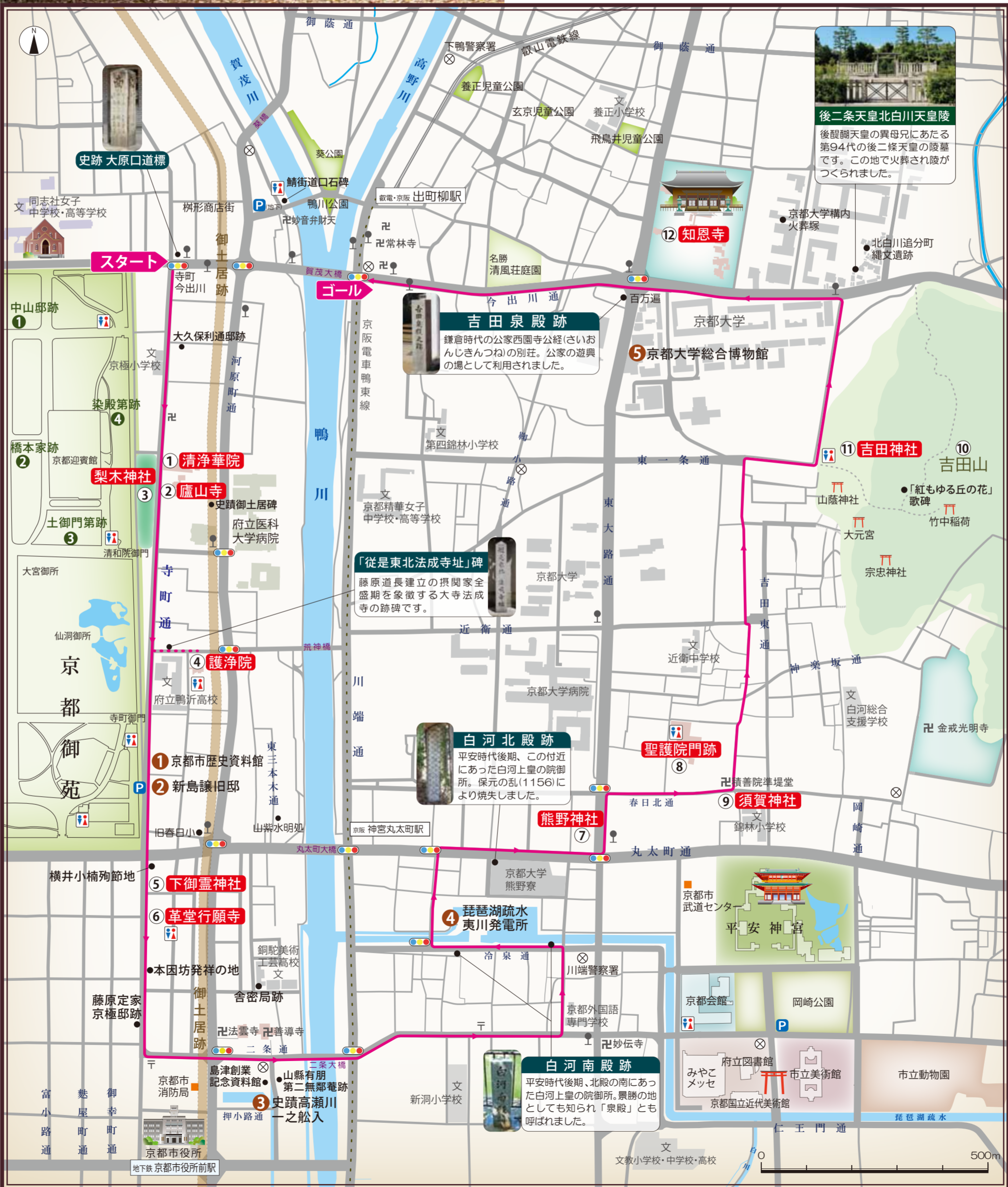
6 革堂行願寺

開山の僧行円が鹿皮を着ていたことから、皮聖と呼ばれたのが寺名の由来です。中世には六角堂と呼ばれ、上京の町堂として栄えました。境内に都七福神の寿老人を祀ります。

御所東



京都御苑には平安時代から明治維新まで多くの公家邸宅がありました。また、平安時代中期には、二条大路が京外の鴨川を越えて延長され、白河に院政の地が広がります。豊臣秀吉の時代に寺町通に寺院が集められ寺院街となります。また、明治時代以後には近代教育と学問の発祥地となります。歴史と史跡・文化財の多い京都御苑東北、寺町と二条通、吉田山西麓を歩き、周辺の見所をご紹介します。



京都大学周辺の社寺

7 熊野神社

平安時代後期に熊野新宮を勧請した一つと考えられ、聖護院の鎮守社となります。本殿は賀茂御祖(かもみおや)神社(下鴨神社)の旧本殿を移築(1835)したものです。



8 聖護院門跡

不動明王を本尊とする本山修験宗総本山で門跡寺院。最盛期には二万余りの末寺をかかえた修験道の中心寺院の一つです。江戸時代には、二回仮皇居となったことから、国指定史跡となっています。



9 須賀神社

平安時代末期に美福門院(近衛天皇生母)の建てた歡喜光院の鎮守として創祀。元の社地は平安神宮着龍楼の東北に塚があり、岡崎の東天王社に対し、古くは西天王社と呼ばれました。



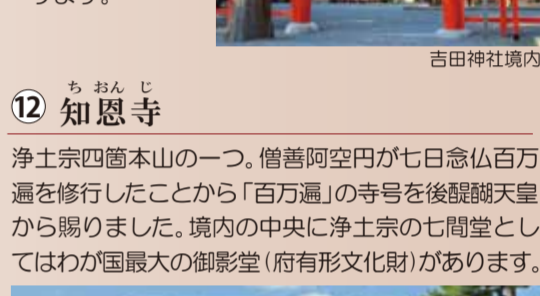
10 吉田山

南北約400m標高約105mの孤立小丘で、丘陵一帯は吉田神社の境内地です。古くは神楽岡とも呼ばれた聖域で、天皇の陵墓も設けられました。中世には度々戦場ともなります。今は公園化し、西麓に吉田神社があり、山上付近に宗忠神社、竹中稲荷などがあります。



11 吉田神社

平安時代前期に大和の春日神が勧請され、藤原氏の京での氏神として崇敬されました。室町時代中期に吉田兼具(よしだかねとも)が唯一神道を唱え、宗家として大元宮を創設します。境内には1601年に再建された八百万神を祀る斎場所大元宮(重要文化財)のほか多くの摂社末社があります。



12 知恩寺

浄土宗四箇本山の一つ。善養阿闍梨が七日念仏百万遍を修行したことから「百万遍」の寺号を後醍醐天皇から賜りました。境内の中央に浄土宗の七間堂としてわが国最大の御影堂(府有形文化財)があります。



周辺の見どころ

1 京都市歴史資料館

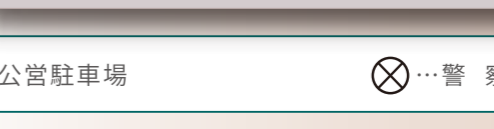
京都市の歴史資料や図書など十数万冊を収蔵し、古文書等の閲覧もできる資料館。各資料展示のほか、歴史・古文書講座等も実施されています。

2 新島襄旧邸

1875年、新島襄は当時、公家の屋敷であった当地を校舎として、妻・八重の兄、山本寛馬(かまくま)と共に同志社英学校を設立しました。建物・家具などが市指定有形文化財となっています。

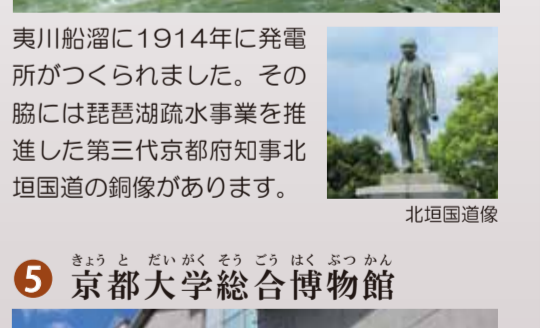
3 高瀬川一之船入

1611年に開かれた運河高瀬川の起点。「船入」とは荷物の揚げ降ろしをする場所のことです。国の史跡に指定されています。



4 琵琶湖疏水夷川発電所

夷川船溜に1914年に発電所がつけられました。その脇には琵琶湖疏水事業を推進した第三代京都府知事北垣国道の銅像があります。



5 京都大学総合博物館

京都大学が開学以来収集した貴重な学術標本資料など約260万点を収蔵。2001年に開館した展示面積2500㎡の日本最大規模の大学博物館です。

御所東周辺の発掘調査

御所東は京都市街地の東中央部にあたります。京都御苑は、明治二年（1869）の東京遷都により、明治十年（1877）から約6年かけて整備され現在の景観になりました。平安時代は平安京左京の北東隅にあたり、藤原氏を中心に多くの公家邸宅が営まれ、内裏が焼亡した際には、天皇の里内裏としても利用されました。また、御苑東外の隣接地には、平安時代中期に藤原道長が建立した法成寺（ほうじょうじ）跡が推定されています。桃山時代の天正十七年（1589）には豊臣秀吉により御所周辺に公家町が造られ、天正十九年に京の町全体を囲むように御土居が築かれ、御土居の東側に沿って寺社が集められ、その西側に寺町通りが造られました。近年、御苑内の北東部で京都迎賓館の建設に伴う発掘調査が行われ、平安時代の貴族の邸宅跡や近世の公家町の様子が明らかになりました。また、鴨川東の岡崎地区は藤原氏代々の別荘地でしたが、平安時代後期には白河・鳥羽天皇らによって寺院や御所が造営され、白河街区とよばれる院政の拠点となりました。白河街区の開発は二条大路の延長道路を中心に行われ、北への拡大は吉田山南西の地域まで及んでいたことが、発掘調査で明らかになっています。また、北白川追分町遺跡や吉田本町遺跡など縄文時代の遺跡も広がっています。

～文化財と遺跡を歩く～
京都歴史散策マップ



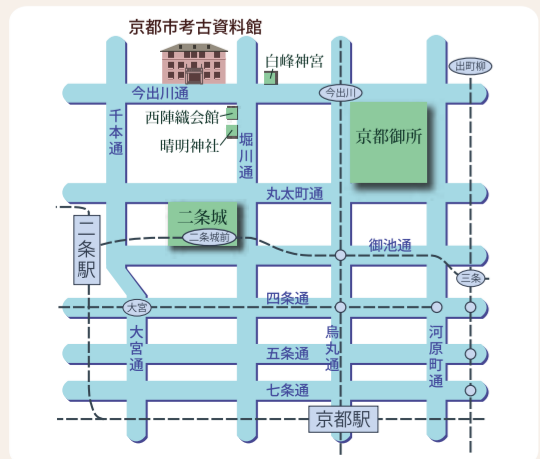
発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所



京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東元伊佐町 265-1
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/
入館無料・月曜休館（月曜が祝日の場合は翌日）
開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）
JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分
市バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ



発掘調査の様子



穴蔵の埋土の様子



穴蔵から出土した陶磁器類

①～③ 京都迎賓館の発掘調査（平安時代～江戸時代）

① 平安京左京北辺四坊跡（平安時代）

1997年～2002年にかけて京都御苑内で、京都迎賓館建設に伴う発掘調査が行われました。この調査は平安京跡では、これまでに例をみない大規模な調査面積（約15,000㎡）でした。調査では古墳時代から江戸時代の建物跡、溝、井戸、池跡、道路跡、流路跡などが多数見つかりました。特に平安時代のものは建物や井戸、道路や溝などが見つかり、平安京北東部の様子が明らかになりました。また平安時代の遺物には、儀式様土器といわれている白色土器が土御門第跡地の近くの穴から多量に見つかりました。



上空から見た北側の調査区（上が北）



上空から見た南側の調査区（左が北）



発掘調査の様子



流路跡（平安時代以前）



溝や建物跡（平安時代）

④ 白河街区跡（平安時代～鎌倉時代）

白河街区跡の北側にあつたとされる福勝院跡で2011年に発掘調査が行われました。福勝院は平安時代後期の仁平元年（1151）に建立され、鎌倉時代の応永三年（1396）まで残っていたと推定されています。調査では鎌倉時代の敷地の境界付近に石を集めて造られた施設や、石が詰まった穴等が発見されました。また、縄文時代晩期の縄文土器も見つかりました。



発掘調査の様子



敷地境界とみられる施設

石が詰まった穴



出土した縄文土器（縄文時代後期）

⑤⑥ 北白川追分町遺跡（縄文時代）

1995年、今出川通の道路中央部の発掘調査で、縄文時代から室町時代の遺構が多数見つかりました。特に、縄文時代後期と弥生時代前期の土器棺墓といわれる墓が見つかりました。約240m離れた北東では、縄文時代後期の墓地在、1974年の京都大学北部構内の発掘調査で見つかっています。現在は京都大学理学部植物園内に移築保存されています。



発掘調査の様子



土器棺墓（縄文時代後期）

土器棺墓（弥生時代）



京都大学理学部植物園内に移築復元された墓地

② 法成寺跡（平安時代）

法成寺は寛仁三年（1019）藤原道長によって造営が開始されました。寺域は土御門大路末、東京極大路東外に南北三町、東西二町の規模で建立されましたが、康平元年（1058）に火災で全焼しました。延久四年（1072）に藤原頼通が法成寺西北院を左京北辺四坊八町に再建しています。発掘調査では法成寺推定地の北西部と西北院の再建地で、平安時代の緑釉瓦が多数見つかりました。緑釉瓦は平安時代造営時に主に宮・京の重要建物に葺かれていましたが、平安時代中期に入ると仁和寺と法成寺に用いられたとされています。出土した緑釉瓦は法成寺に用いられていたと思われます。



井戸跡（平安時代）



建物地葉跡（平安時代）



発掘調査の様子



出土した白色土器（平安時代中期）



法成寺跡から出土した緑釉軒瓦（上列は軒丸瓦 下列は軒平瓦）

